

<報道関係のみなさま>

瀬戸内寂聴さんがエッセー連載
「寂聴 残された日々」 第2金曜日 文化・文芸面に

朝日新聞朝刊の文化・文芸面で、12日付から作家で僧侶の瀬戸内寂聴さん(93)のエッセー「寂聴 残された日々」が始まりました。原則として毎月第2金曜日に掲載します。第1回は「女流作家の訪れ」。自身もかつて手がけた「源氏物語」の現代語訳をめぐる随想をつづっています。連載は朝日新聞デジタルでもご覧になれます。

エッセーのタイトルは寂聴さん自身が考えました。寂聴さんは昨年5月から療養を続けていますが、昨秋には自身の人生の終着点を見つめる「死に支度」(講談社)を出版しました。今年4月には、京都市の「寂庵(じゃくあん)」で約11カ月ぶりに法話を再開しています。

連載開始に当たり、寂聴さんは「今度また与えられた命を何に使うべきか。戦争はするなと言いつづけますし、作家ですから命がある限り、まだまだ書きたいと思います」と話しています。

寂聴
残された日々



<本件に関するお問い合わせ>

朝日新聞社広報部

TEL 03-3545-0131 (代表)